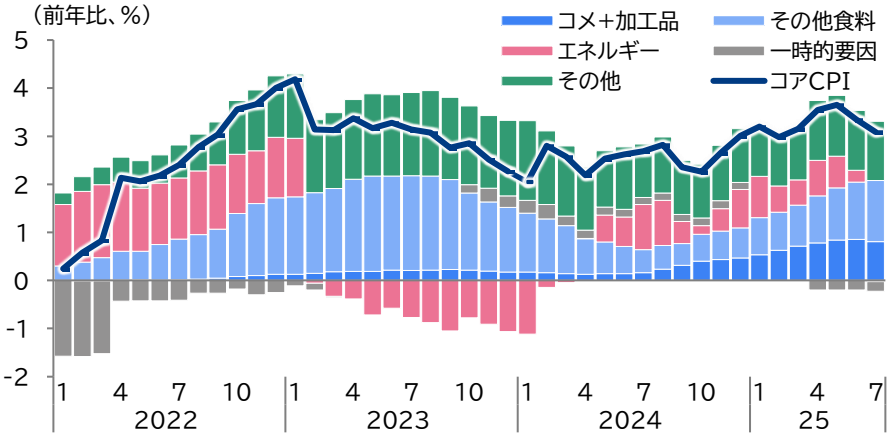
日本

消費者物価指数（2025年7月）

コアCPIの伸びは2カ月連続縮小、先行きは緩やかに低下の見込み

政策・経済センター
山本道也・堂本健太
03-6858-2717

1 コアCPI（生鮮食品を除く総合）



注：一時的要因は、高校授業料の無償化など政策や統計処理の影響。コメ＋加工品は、米類に加え、コメを材料とする加工品11品目を対象として算出。
出所：総務省「消費者物価指数」を基に三菱総合研究所作成

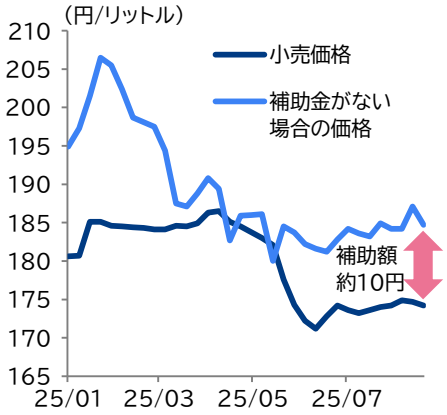
2 25年産米の概算金

（60kgあたり）

新潟 コシヒカリ	30,000円 （前年比1.8倍）
新潟 魚沼産コシヒカリ	32,500円 （同1.7倍）
北海道 ななつぼし	29,000円 （同1.7倍）
山形 はえぬき	28,000円 （同1.7倍）

出所：各種報道を基に三菱総合研究所作成

3 レギュラーガソリン価格と補助金の影響



注：週次ベース。直近は8月25日の週。
出所：資源エネルギー庁「燃料油価格激変緩和補助金」、「石油製品価格調査」を基に三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 25年7月の消費者物価指数（生鮮食品を除く総合、以下「コアCPI」）は、前年比+3.1%（6月同+3.3%）と2カ月連続で伸び率が縮小した（図表1）。
- コアCPIの伸びを項目別に見ると、「■エネルギー」（6月前年比寄与度+0.24%pt→7月同▲0.03%pt）が、前年7月に電気代・ガス代軽減策が終了した影響からマイナス寄与に転じた。
- 一方、「食料（■＋■）」（6月同+2.05%pt→7月同+2.08%pt）のプラス寄与は12カ月連続で拡大した。コメ関連品目（■）の高い伸びが続くなか、チョコレートを筆頭にその他食料（■）の伸び率が拡大した。
- また、様々な財・サービスを含む「■その他」（6月同+1.25%pt→7月同+1.23%pt）のプラス寄与は概ね横ばいとなり、安定した伸びが続いている。

基調判断と今後の流れ

- 消費者物価は、食品価格高騰に加え、企業の価格転嫁が続いていることから、3%台の伸びが続いている。
- 先行きについて、経済全体の需給タイト化に伴う物価上昇圧力が続くものの、コメ価格高騰の影響一巡によりコアCPIの伸び率は緩やかに鈍化すると予想する。
- コメ価格高騰による物価上昇率の押し上げ効果は縮小するとみる。農協が生産者に前払いする概算金は、主要都道府県で3万円前後（60kgあたり）と前年から1.7倍以上に上昇しており（図表2）、コメ価格は当面高止まりが予想される。もっとも、CPIの調査対象となる5kgの銘柄米について、4,000円台での推移が続いたとしても、コアCPI伸び率の押し上げ幅（7月前年比寄与度+0.6%pt）は25年度末に+0.1%pt程度に縮小すると試算される。
- また、ガソリン暫定税率の廃止によりエネルギー価格が一段と下落する可能性もある。与野党はガソリン暫定税率を年内に廃止する方針で合意しており、実現すれば25.1円/Lの減税となる。現在の10円/Lの定額補助終了の影響を差し引いても（図表3）、コアCPIを▲0.2%pt程度押し下げると試算される。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.